

テサロニケ第一2章13節 「あなたがたのうちに働くみことば」

1A 神のことば

1B 神の働き

2B 神の栄光

3B 主の御名

4B 人となったことば

2A 受け入れるみことば

1B 救い

2B 実現するみことば

3B 良い土地

3A 事実、みことば

1B 聖霊に導かれた人

2B 語る人を拒む頑なさ

3B 人のことばの空しさ

4A 信じる者

1B 従おうとする心

2B 働く力と権威

本文

テサロニケ人への手紙第一2章を開いてください。私たちの聖書通読の学びが、前回、1章まで来ましたが、今日午後に2章を一節ずつ見ていきます。ここに、使徒たちがテサロニケ人の教会でいかに彼らを養っていったのか、その働きの中身を見ることができます。楽しみにしててください。今朝はその一部である、2章13節をじっくりと見ます。「**こういうわけで、私たちもまた、絶えず神に感謝しています。あなたがたが、私たちから聞いた神のことばを受けたとき、それを人間のことばとしてではなく、事実そのとおり神のことばとして受け入れてくれたからです。この神のことばは、信じているあなたがたのうちに働いています。**」

私たちは、前回、テサロニケの人たちが、ギリシア全域の教会で噂が広がり、信者の模範になっていることを見ました。これは、すごいことです。彼らは信仰の働き、愛の労苦、主イエスを待ち望む望みの忍耐で知られていました。彼らがそんなに優れていたのは、なぜか？について、その中身をパウロは、すでに1章で語っていましたね。「1:5 私たちの福音は、ことばだけでなく、力と聖霊と強い確信を伴って、あなたがたの間に届いたからです。あなたがたのところで、私たちがあなたがたのためにどのように行動していたかは、あなたがたが知っているとおりにです。」そして、6節、「あなたがたも、多くの苦難の中で、聖霊による喜びをもってみことばを受け入れ、私たちに、そし

て主に倣う者になりました。」福音のみことばを、受け入れていました。しかも、ことばだけでなく、聖霊と力と強い確信の中で、しっかりと受け入れていました。それで、彼らが変わられたのです。

したがって、今朝の学びはとても大事なものとなります。私たちが、なぜ聖書をこれだけ、じっくり見ていっているのか？という、主の聖霊が、みことばによって私たちの内で働いてくださることを願っているからです。しかし、しばしば私たちは、「Ⅱテモ 3:7 いつも学んでいるのに、いつになっても真理を知ることができません。」ということが起こります。聖書の知識は多くても、それがキリスト者として変えられていない、主の似姿につながっていないことがあります。ヘブル書では、荒野をさまようイスラエル人について、「4:2 彼らは聞いたみことばが益とはなりませんでした。みことばが、聞いた人たちに信仰によって結びつけられなかったからです。」とあります。ただ、学んでいるだけでは、それが霊的な糧となっていないことがあるのです。

それで、テサロニケ人たちの模範があるのです。彼らは、みことばを聞いた時に、それを把握しようとしていませんでした。みことばが理解できた！ということが目標ではありませんでした。むしろ、みことばに自分が捕らえられた、ということのほうが主体だったのです。みことばを理解するよりも、みことばに自分が動かされているのです。自分自身は、なんでそんなことを言われているのか頭では理解できなくとも、それに従っていることに熱心になっています。それで、いつの間にか、自分では気づいていなくても、主が自分の中で、働いておられるのです。自分ではわからなくても、主が行っておられることを周りの人々が知るようになります。自分自身でも、自分ではなく、主が行われていることに感動します。

それをパウロはここで、「この神のことばは、信じているあなたがたのうちに働いています。」と言っているのです。主語は神のことばです。そして、働いているのも神のことばです。その権威と力が大事であって、自分がその中にいるのか、いないのか？が問われています。

1A 神のことば

まず、神にとっての、ご自分のことばって、何だろうか？を考えてみたいと思います。

1B 神の働き

神は、ご自分の初めの創造の働きを、ことばでもって行われたことを思い出してください。「創世 1:3 神は仰せられた。「光、あれ。」すると光があった。」主は、語られるとそのままその通りになっていきます。神は、ご自分のことばによって無から有を創造し、事を起こし、また動かされます。イザヤが預言しました、「55:11 そのように、わたしの口から出るわたしのことばも、わたしのところに、空しく帰って来ることはない。それは、わたしが望むことを成し遂げ、わたしが言い送ったことを成功させる。」

2B 神の栄光

そして、主がご自分の栄光を現す時に、幕屋の至聖所から語られたことを思い出してください。「出 25:22 わたしはそこであなたと会見し、イスラエルの子らに向けてあなたに与える命令を、その『宥めの蓋』の上から、あかしの箱の上の二つのケルビムの間から、ことごとくあなたに語る。」とされています。その宥めの蓋の下には、契約の箱がありますが、その箱は、十戒の書き記された板を収めています。主は、ご自分が御座におられる栄光を、語られる中で表し、そして、そこには、ことばの板が収められており、主はことばの神であることが分かりますね。他の神々と呼ばれているものには、肉眼で見ることのできる神ですが、私たちの神は、ことばをもってご自身を現す方であり、それで私たちはこの方と交わるのです。

私たちには、体かたちがあります。けれども、これらは器であって、その本質は霊にあります。霊を形成しているのが、人格的な交わりです。私たちはそこから言葉が生まれ、そして言葉を交わすことによって、人格的な交わりができます。見目麗しい女よりも、主を恐れる女がほめたたえられると、箴言の最後に書いてあります。内にある美しさがありますね。こちらが本物です。私たちは、神の似姿に造られており、神ご自身がことばによってご自身を現しておられます。

3B 主の御名

それゆえ、主の御名のゆえに、主はご自分のことばを高く上げておられます。「詩 138:2 あなたがご自分のすべての御名のゆえにあなたのみことばを高く上げられたからです。」主がご自分の本質を示す時に、みことばを高く上げられるのです。みことばによって、主を知るのです。

4B 人となったことば

そして主は、ことばが肉体を持つことによって、語られました。「ヘブル 1:1-2a 神は昔、預言者たちによって、多くの部分に分け、多くの方法で先祖たちに語られましたが、この終わりの時には、御子にあって私たちに語られました。」「ヨハ 1:14a ことばは人(肉)となって、私たちの間に住まわれた。」私たちの主イエスが、ことば(ロゴス)と呼ばれています。ことば、ロゴスが肉体を取られたのです。このようにして、神は御子イエスによって、完全にお語りになっています。このようにして、私たちは、神はことばをもって働きをされ、ことばをもってご自分の栄光を表し、御名のためにことばを高く上げ、ついに肉体を取って語られているのです。

これで分かりますか？私たちは、神のことばをもって、御霊によって神に礼拝する、ひれ伏すのです。

2A 受け入れるみことば

そして、「**神のことばを受けた**」また、受け入れたと言っていますね。

1B 救い

聖書には、みことばを受け入れたということが、救われたことと同じこととして書かれています。「使 2:41 彼のことばを受け入れた人々はバプテスマを受けた。その日、三千人ほどが仲間に加えられた。」そして、「使 8:14 エルサレムにいる使徒たちは、サマリアの人々が神のことばを受け入れたと聞いて、ペテロとヨハネを彼らのところに遣わした。」受け入れる時に、みことばが私たちの魂を救います。

2B 実現するみことば

そこで、何をもって受け入れているのか？ということなのです。受け入れるとは、自分の身に大きな変化が起こっても、それでも受け入れるということです。イエス様の母、マリアのことを思い出してください。ガブリエルがやって来て、彼女がメシアを自分の胎に宿すことを言われた時に、彼女はこう言いました、「ルカ 1:38 ご覧ください。私は主のはしためです。どうぞ、あなたのおことばどおり、この身になりますように。」主のことばのとおりに、この身になりますようにと言ったのです！自分の頭の中で、主の言葉を理解するような領域では、全くありません！自分が懐妊するのです。そして子を産むのです。受け入れるというのは、このように自分自身が変わられるのを受け入れるということです。

3B 良い土地

それで、イエス様は、神のことばと人の心の関係を、種蒔きの土に喩えました。受け入れても、何か都合が悪くなるとすぐにでも捨てるのであれば、それは岩地の土であるとイエス様は言われました。迫害が来るとそうなのです。受け入れても、世の思い煩いや富への惑わしがあるなら、それはいばらの心であり、実が結ばれないとイエス様が言われました。良い土地のみが、受け入れる心です。「ルカ 8:15 しかし、良い地に落ちたものとは、こういう人たちのことです。彼らは立派な良い心でみことばを聞いて、それをしっかり守り、忍耐して実を結びます。」これが、神のことばを受け入れる、ということです。

3A 事実、みことば

そしてパウロは、「**人間の**ことばとしてではなく、事実そのとおり神のことばとして受け入れてくれた****」と言っていますね。パウロたちが語っているから、彼ら人間の**ことばとして捉えても、おかしくありません**でした。しかし、**事実そのとおり**に神のことばとして受け入れたのです。

1B 聖霊に導かれた人

神のことばを受け入れる時に、妨げになるのは、その語っている人が、人間だからです。神は、ご自分で直接語ることをせず、人を通して語られます。「Ⅱテモ 1:21 預言は、決して人間の意志によってもたらされたものではなく、聖霊に動かされた人たちが神から受けて語ったものです。」これは、聖書が神の靈感、神の息の吹込みによって書かれたことを示すものですが、今も、人が

神のことばを語る時、それはその人のことばではなく、その人が神のことばを語っているなかで、神が聞いている人に語られるのです。

2B 語る人を拒む頑なさ

ですから、私たちが人の語っている時に、聖書の言葉を語っている時に、その人が聞いているのは、神の声であるのにも関わらず、その人が自分に押し付けているのだ、と、神の語られているのを知らずに、反発することがよくあります。あなたは、私のことを知っていて、それであてこすって語っているのでしょうか？と反発するのです。けれども、その反発や妬みを引き起こしているのは、まさに神ご自身が御霊によって、その人の良心に触れているのであって、それに応答すればよいのです。しかし、神がおられることを拒んでいるので、人から言われたとってしまいます。パウロたちの宣教の場合は、ユダヤ人たちが怒り、彼らを迫害しました。

3B 人のことばの空しさ

それから、神のことばそのものではなく、人のことばを好む人たちが多いです。神のことばに、こう書かれているから、ということではなく、だれかが語った言葉にもっと心を引き寄せます。神が天と地を創造したという言葉よりも、無神論者の科学者が語ったことばのほうを選ぶのです。しかし、人のことばがどれほど空しいことか、考えたことがあるでしょうか？聖書に対して、何世紀にも渡って、人々はいちやもんを付けてきましたが、それでも生き残っているのです。それに対して、人のことばなど、どれほど続くか分かりませんね。

18 世紀に生きた、フランスの哲学者ヴォルテールは、100 年もしたらキリスト教は消え去って、過去の記憶になっているであろうと言っていました。しかし、彼の死後、100 年経ったら、そこは、印刷した聖書の保管のために使われるようになったのです！人がどんなに語ろうが、聖書のことばは、金床のように、打たれても打たれても、むしろその真価を発揮します。打っている金づちのほうで、消耗して使えなくなります。

4A 信じる者

そして、パウロは、「この神のことばは、信じているあなたがたのうちに働いています。」と言っています。

1B 従おうとする心

信じている者だからこそ、神のことばがうちに働きます。信じるとは、自分の力ではできないことを告白することです。ペテロが、網を下ろしなさいとイエス様から命じられましたが、一晩中、漁をしていましたが、とれなかったのです。けれども、あなたのおことばですから、ということで、主の明治らえていることに従おうとしたのです。そうすると、主の力は現れます。大漁だったのです！聖書は、そうした記述で一杯です。その人が信じて、従おうとする時に、主は従うことができるように、そ

の時に聖霊の力で従うようにされるのです。手がなえている人も、伸ばしなさいと主に命じられて、それに従おうとして聞いたら、手が伸びました。信仰とは、自分でできないことを認めるところから始まります。

2B 働く力と権威

そして、主のことばが働くのです。信仰によって、神のことばが働く機会を作っているのです。イエス様のことばの特徴は、権威がありました。悪霊をも従うので、驚いた人々がいました。また、イエス様の教えが、権威を持って語られているので、それも驚きでした。百人隊長の語った言葉が、神のことばの性質を最もよく表している中の一つです。彼は、自分のしもべの病が治るためには、イエス様のお言葉だけでいい、と言いました。「マタ 8:9 と申しますのは、私も権威の下にある者だからです。私自身の下にも兵士たちがいて、その一人に『行け』と言えば行きますし、別の者に『来い』と言えば来ます。また、しもべに『これをしろ』と言えば、そのようにします。」

これが、神のことばの本質を表しているのです。自分自身が神のことばの権威の下に置くのです。みことばをそのまま、神からのものとして受け入れます。権威の下に自分を置きますと、そこから神の権威が現れます。自分が赦せない人がいたとして、けれども、主がそう言われているのだから、そうしますと降参すれば、明け渡せば、その赦しの心が与えられて、赦すことができるようになるのです。こうやって、神のことばが、うちに働くのです。

みなさんが、みことばを聞く時に、どこまで権威の下に入れていらっしゃるでしょうか？しっかりと良い土地に落ちた種のように、しっかりと保ち、忍耐して実を結ばせていますか？聖書を理解するだけでは不十分なのです。語られるみことばが、そのまま事実としてみことばとして受け入れている中で、主のことばが内に働きます。